

第二次アメリカ教育使節團の報告中

幼児教育に關する提言について

倉 橋 惣 三

本年八月マツカーサー元帥の招請によつて來日した第二次アメリカ教育使節團は、約一ヶ月間滯日、日本教育刷新審議會委員、文部大臣およびその幕僚、および國會兩議員の文部委員と會談、更に多くの日本諸學校を視察の上、九月二十二日付マツカーサー元帥あて、日本教育民主化の再評價とさらに改革すべき問題につき、多くの勸告を示唆した報告書を提出した。教育の全面に亘り、すべて有益な提言であるが、本誌として直接關係ある幼児教育に關する部分においても、極めて適切なる勸告が與えられ、將來の發展のための有意義な基礎的寄與として注意すべきである。

五年前の第一次アメリカ教育使節團報告における幼児教育に關する點は、

『兒童の成長發達の確實な原則から見て、學校施設を更に年少の兒童にまで及ぼすことの賢明なことが分る。正規の學校制度に必須な改革が行われ、適當な經費が支給せられる時が來たら、育兒所や幼稚園をもつと多く設けてこれを小學校に組み入れるように勤める』

とあつた。

今回の第二次使節團の勸告は、これに具體的な一歩を進め教育行政の章において、

『保育學校および幼稚園は、小學校の一部として設置すべきである』

と確言し、又教員養成教育の章において、

『個人的成長發達の研究をもとと強調する必要がある。附屬學校および協力學校は子供の成長發達を直接觀察するために使用すべきである。保育學校および幼稚園は附屬小學校と結びついて存置せられ、子供の觀察と幼稚園の教師養成のための學生の教育参加及び教育實習のために使用すべきである。保育學校、幼稚園の教育に従事したいと思う教師は、同時にまた小學校を教えることができるように養成せらるべきである』(倉橋譯)

と示してある。その他、學校教育一般について資裕、待遇等のそれらの條項が、保育學校および幼稚園に共通せられることは素よりである。

以上二つの條項が、如何なる重要意義をもつかは多くの説明を要しないであらう。これらは、使節團と懇談の機會をも

つた保育界諸方面からの要望中にもあつたところであるが、教育刷新審議会委員として余も亦強く要望せる點が理解せられたことは、深き喜びを感じざるを得ないのである。

『小學校の一部として設置せらるべきである』ということは幼稚園普及の甚だ不足せる現状への、最も組織的な解決法であると共に、幼稚園義務制の理想の實現に對する、最も合理的段階である。また、學校教育體系の中にあつて、就學前教育というよりも一歩進んで低學年前教育という近來の傾向を具體的にするものである。

教員養成の必備要件として幼稚園の緊要の説かれてゐる點は、教育研究學校に附屬幼稚園をもたないところの、今もなお多き不完備を強く指摘するものである。これは、全國附屬幼稚園主事協會からの要望でもあつたが、就學前年齢の研究なくして、小學兒童の正しき理解の出來ないこと、兒童の心身の個人的成長の理解を學び得ないことはいうまでもない。

更に此項において、幼稚園教員養成に關して示されてゐる二つの點は注意せられなければならない。第一は、幼稚園教員養成の必要とその本筋に觸れてゐることであり、現下、日本の保育界最大の缺陷たる、その教師の養成の途の全然とよつてもいゝほどの不備は、恥を忍んで卒直に使節團の前に語つたところでもあり、使節團諸君もその不備を痛感したものである。第二は、幼稚園教員が小學校低學年を教え得るよう養成せらるべきであるということは、幼稚園教育のためにも、小學校低學年教育のためにも、最も適切必須の注意であ

つて、われら年來の主張と合致してゐる。

慾をいへばきりが無い。しかも、使節團の勸告は、日本の教育改革の最も基本的なものとして恐らく最低標準を示せるもので、われらの教育改革と進展が、この範圍内に限られ止められるべきことでないのは素よりである。保育についても、望むところ、或はまた、急を要する改善も、この他に多い。しかも、この最も基本的な、そして最低標準の改革は、必ず急速な實施にうつされなくてはならない。そのために文部省、教育委員會の努力を切望すると共に、われら保育關係者の努力と社會一般の熱意に一段の奮起がなくてはならないのである。

終りに、今回來日の第二次教育使節ウイラード・E・ギヴンズ、ハロルド・ベンジャミン、ジョード・W・デイマー、フレデリック・G・ホックウオルト、ポール・A・ソナメイカーの五氏は、第一次使節團中の要員として懇意の人々であり、屢々懇談の間に舊交をあたゝめ、日本教育についてわが言わんとするところを充分に領得して貰つたことは、余の個人としての喜びも大きかつた。使節團の日本教育のための好意に充ちた努力を感謝すると共に、その懇誼に對して一言を添える。